

DEBUT 首長

大阪府泉大津市長 伊藤 晴彦氏



毛布業の販路開拓支援 子育て世代の支援充実

泉大津市 大阪湾に面した大阪府南部に位置し人口7万7300人。全国一の毛布産地で大阪市中心の難波から急行電車で19分と近く、住宅建設が進む。

——産業振興をどう進めるか。

現在も国内では98%の市場占有率を持つ毛布産地だが、残念ながら生産量は減少している。中国や東南アジアに仕事を奪われ、耐久性が高い素材に代わって消費が減ったからだ。そのため生産だけでなく販路開拓も支援している。例えば2012年に名画をプリントした「アート・ブランケット」と称する毛布を地元の日本毛布工業組合が開発したのを補助し、13年2月に同組合が東京にアンテナショップを期間限定で初めて開いた時にも協力した。

南海泉大津駅前にある複合施設「テクスピア大阪」を12年に大阪府の第三セクターから4億円強で買い取ったが、この施設を商工業の発信基地にしようと考えており、運営を委託している商工会議所と話し合っ

ている。

——所信表明で強調した街づくりの「7つの視点」で福祉関連施策が目立つ。

最近では地域の教育力がなくなって久しい。子どもへのしつけなどを学校に押しつけるのではなく、地域のコミュニティーの力を取り戻し、教育や福祉に協力してほしい。このため「心がかようまちづくり」を最初に掲げ、地域コミュニティーの再構築をめざしている。

次が子育て支援の充実だ。かつては毛布工場が多かったが、工場が減って跡地に戸建て住宅やマンションが増え、若年層も増える可能性がある。小学生の入院時の医療費助成はこれまで2年生までだったが、6月の市議会で6年生までに引き上げることが決まった。認定こども園を13年5月に初めて開いたが、できれば市内に公立の同園を4カ所ほど増やしたい。

——11年度の実質公債費比率が18.7%と大阪府内ワースト3位になり、財政再建も課題だ。

実質公債費比率は借金の影響

いとう・はるひこ 1953年大阪府泉大津市生まれ。近畿大学を卒業後、同市に就職。福祉部門の勤務が長く、生活保護のケースワーカーを18年勤めた。前市長が衆院選出馬のため突然辞任したため、市参与兼健康福祉部長の職を辞し、1月の市長選で初当選。60歳。

が大きく、すぐ改善できない。しかし11年度に3.34%と府内ワースト4位だった連結実質赤字比率は12年度に改善する見込みだ。市立病院や駐車場の会計の赤字が影響していたが、市立病院は改革を進めている。

市立病院の運営体制に問題があり、医師や職員と膝詰めで話し合ってきた。その結果、院長代理だった女性医師が院長を引き受けてくれ、看護師らのサービスも改善している。13年6月に人工透析患者を自動車で送迎するサービスを始め、長期入院患者を減らせる。

——いとこの漫才師、オール阪神さんは市の名誉大使と聞いたが。

彼も泉大津市出身で幼いころから仲が良い。名誉大使に昨秋就任したが、私の市長選応援のため辞任し、当選後に再び就任してもらった。彼が所属する吉本興業も市を応援してくれる。(聞き手は大阪地方部編集委員

種田 龍二)